

平成26年度第7回「墨田区子ども・子育て会議」・ 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成26年12月5日（金）午後6時30分～8時50分
会場：興望館

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料№
(1) 各ワーキンググループの開催状況について	資料1
(2) 消費税率10%先送りに伴う子ども・子育て支援新制度への影響	参考1
(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について ・平成27年度学童クラブ利用申込み案内について ・墨田区次世代育成支援行動計画の強調点等について ・放課後子ども総合プランについて ・ワーク・ライフ・バランスに関する議論の進め方について	資料2 資料3・4 資料5・6 資料7・8
(4) 乳幼児ワーキンググループの検討状況について ・平成27年保育施設利用申込み案内について ・地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保策について	資料9 資料10
(5) 墨田区子ども・子育て支援事業計画（「墨田区次世代育成支援行動計画」を含む）の中間報告について	資料11～16 参考2
(6) その他 ・墨田区保育所整備指針に基づく取組方針について ・おしえて！子ども・子育て支援新制度準備大賞受賞について	資料17 資料18

3 次回開催予定

日 時：平成27年 月 日（ ）午後6時30分～8時30分

会 場：

主な議題：（仮称）墨田区子ども・子育て支援事業計画の素案について

4 閉会

配布資料

資料1	平成26年度第6回墨田区子ども・子育て会議（10月17日）以降におけるワーキンググループの開催状況及び今後の予定
参考1	消費税率10%先送りに伴う子ども・子育て支援新制度への影響
資料2	平成27年度学童クラブ利用申込み案内

資料 3	墨田区次世代育成行動計画の強調点について
資料 4	墨田区における児童館事業の具体的な展開 - 提言に沿って -
資料 5	「放課後子ども総合プラン」について（国からの通知）
資料 6	～放課後子ども総合プランについて～ 厚生労働省 文部科学省
資料 7	墨田区男女共同参画推進プラン（第4次）
資料 8	学齢ワーキンググループ「ワーク・ライフ・バランス ミニシンポジウム」企画案
資料 9	平成27年保育施設利用申込み案内
資料 10	基礎データ
資料 11	墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画【中間報告】
資料 12	墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画【中間報告】 （概要版）
資料 13	墨田区子ども・子育て支援事業計画（次世代育成支援行動計画部分）の主なポイント
参考 2	現次世代計画の体系（抜粋）
資料 14	現次世代計画に掲げている「平成26年に達成すべき新たな目標」とその達成度
資料 15	墨田区次世代育成支援行動計画策定のための調査報告書 平成21(2009)年3月（抜粋）
資料 16	墨田区次世代育成支援後期行動計画 将来像の指標(目標)【案】
資料 17	墨田区保育所整備指針に基づく取組方針
資料 18	おしえて！子ども・子育て支援新制度準備大賞 表彰状【写し】
参考資料	墨田区乳幼児ワーキンググループ専門委員会提言
参考資料	墨田区男女共同参画情報誌「にじ」No.21

出席者(敬称略)

○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）
 野原 健治（興望館館長）
 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
 西島 由美（にしじま小児科院長）
 服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
 財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）
 内田 淳（青少年委員協議会委員）
 森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
 小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
 佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
 賀川 祐二（NPO 法人 病児保育を作る会代表理事）
 佐藤 摩耶子（公募）
 荘司 美幸（公募）
 徳野 奈穂子（公募）
 福田 三加代（公募）
 荒木 尚子（緑幼稚園長）

青塚 史子（太平保育園長）

< 欠席委員 >

長田 朋久（横川さくら保育園長）
杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
野口 悦子（主任児童委員）
松芳 保（小学校 PTA 協議会会長）
飯田 昌弘（中学校 PTA 連合会会長）
金子 里美（NTT 労働組合東京総支部執行委員）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
多胡 晴子（公募）
須藤 太郎（八広小学校長）
菊本 和仁（桜堤中学校長）

< 傍聴 >

3 名（男性 0 名、女性 3 名）

○課長出席者

大滝 信一（福祉保健部長）、関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長）、中橋 猛（保健衛生担当部長）、小倉 孝弘（子育て支援課長）、鈴木 一郎（子ども課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）、前田 泰伯（生涯学習課長【教育委員会事務局次長代理】）、渡部 和美（人権同和・男女共同参画課長）

○事務局出席者（検討チーム含む）

田村・浦辺・井場・松本・遠藤・酒井・杉崎・長山・柿畑・坂田・藤井・黒岩

○事務局（株）地域総合計画研究所）

大鹿、佐々木

1 開会

会長	これより開催する。
事務局	委員の出席状況について、現在の時点で 28 名の内、過半数以上が出席しており、定足数を満たしているため、会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。 また、第 6 回目の会議記録を委員に配布し、特段、修正等の意見がなかったため、議事録として確定している。

2 議題

(1) 各ワーキンググループの開催状況について

事務局	(資料 1 について説明)
会長	何か意見等はあるか。(特に意見なし) では、次の議題へ進める。

(2) 消費税率 10% 先送りに伴う子ども・子育て支援新制度への影響

事務局	(参考 1 について説明)
会長	国は、消費税増税を延期した分は他から持ってくるとしていたが、量の方だけではなく、質の方もそのように捉えてよいのか。
事務局	既に 8% となっているため、今年上がった 3% 分は量の拡充に使われている。ただし、質の分は不明な部分はある。 なお、この計画は中間年でニーズ調査を行った上で、見直しをかけたいと考えている。
委員	見直しの際のニーズ調査は、今回のニーズ調査と同じような調査となるのか。
事務局	区の独自の調査を考えている。国の調査は潜在的なニーズの掘り起こしも含まれているが、現実的な部分を明示した上でニーズを把握したい。
委員	今回のニーズ調査は、金額等を示さずに利用希望を聞いていたため、それらを示した上で聞いた方がよいと考える。

(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について：平成 27 年度学童クラブ利用申込み案内について

事務局	(資料 2 について説明)
会長	何か意見等はあるか。(特に意見なし) では、次の議題へ進める。

(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について：墨田区次世代育成支援行動計画の強調点等及び放課後子ども総合プランについて

委員	(資料 3～6 について説明)
事務局	放課後子ども総合プランにおける「一体的運営」や「一体型」とは、児童館と放課後子ども教室の事業者が必ずしも同一ということではなく、連携を強化していく意味での「一体型」である。

委員	そのような形で結構である。学校内に学童クラブを持っていない学校もあり、そうした学校は、近くの学童クラブや多くの機能を持っている児童館から支援を受けることになるだろうから、連携の方向で進めていくことが示されている。
委員	他の自治体を見ると、一体化を始めているところもあり、墨田区でもその方向性で検討する必要があるのではないか。
委員	国の資料では、一体型を中心とした運営とあるため、一体型の運営を明記するのは何ら問題がないと思う。
事務局	国が言っている一体型とは、学校の敷地内に学童クラブがある場合のもので、同一の事業者ではない。そのため、別の事業者による運営の場合もある。これからの運営と拡充については、今後、検討していきたい。
委員	学齢 WG の提案は、放課後子ども教室、学童クラブ、児童館の 3 本柱による施策の展開である。
事務局	概念として、委員の述べた一体的運営とは、一体型や連携を特段、意識していない形だと思うが、先ほど事務局から述べた一体的とは、学童クラブと放課後子ども教室を同一に運営するものである。今回の放課後子ども総合プランでは、学校の敷地内に学童クラブがあり、さらに、それとは別に放課後子ども教室があった場合に、両者を一体型として実施することを示している。 また、それらとは別に連携型という概念があり、学校には放課後子ども教室はあるが、学童クラブがない場合で、学童クラブを利用している子どもが学校内の放課後子ども教室を利用できるようにすることである。
事務局	(子どもショートステイ事業、養育家庭についての説明)

(3) 学齢ワーキンググループの検討状況について:ワーク・ライフ・バランスに関する議論の進め方について

委員	(資料 7 について説明)
委員	ワーク・ライフ・バランスについてあまり議論されずに、計画として出ていくのはいかがかと感じていた。墨田区はワーク・ライフ・バランスを男女共同参画の部署で扱っているが、本来の趣旨とは異なり、多くの部署が関係して進めていくのが良いと考えていた。ただ、こうして議題として取り上げて、来年の 4 月以降に区で具体的な活動が展開できればよい。
事務局	(男女共同参画課における取り組みについて説明) (資料 8 について説明)
委員	シンポジウムの周知はどうするのか。
事務局	多くの場面で周知を図っていきたい。
委員	委員以外の区民などにも、オープンな参加の呼び掛けは可能か。
事務局	傍聴可能としている。そのため、多くの区民や関係者に参加してほしい。

(4) 乳幼児ワーキンググループの検討状況について:平成 27 年保育施設利用申込み案内について

事務局	(資料 9 について説明)
会長	何か意見等はあるか。(特に意見なし) では、次の議題へ進める。

(4) 乳幼児ワーキンググループの検討状況について：地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保策について

事務局	(資料 10 について説明)
会長	何か意見等はあるか。(特に意見なし) では、次へ進める。
会長 事務局	(参考資料により乳幼児 WG 専門委員会の経緯と内容を説明)
委員	つなぐ人が重要であり、親を巻き込んだ自助が大切である。子どもの視点に立った子育て支援を考えないといけない。
会長	支援メニューを増やすことが子どもにとってプラスとなるのか、みんなが子育てに参画できるような仕組みをどう作るかなど、ワーク・ライフ・バランスにも関連する議論になる。
委員	支援ばかり増やしても母親の力にはなっていない。支援ではなく、近所からの応援が必要とされているのではないか。

(5) 墨田区子ども・子育て支援事業計画(「墨田区次世代育成支援行動計画」を含む)の中間報告について

事務局 (地域研)	(資料 11～16 について説明)
会長	本日はこの議題についてどこまで議論するのか。
事務局	時間の関係から議論は難しいため、意見があれば、事務局までいただきたい。
会長	できれば WG にもつなげてほしい。また、本日は提案を受け、何か意見があれば事務局へ上げる形とする。
委員	計画はいつまでに確定させるのか。
事務局	計画自体は 4 月スタートであるため、意見公募は 1 月下旬から 2 月下旬にかけ、それらを集約し、3 月末まで確定させる。意見公募前までにある程度、確定させたい。

(6) その他：墨田区保育所整備指針に基づく取組方針について

事務局	(資料 17 について説明)
委員	地域福祉計画を入れたらどうか。住民主体や自助という考え方が重要で、地域を作る意識を住民が持つ必要があり、ここに入れておいた方が良い。 また、区割も重要であり、これについてももう少し議論できればよい。

(6) その他：おしえて！子ども・子育て支援新制度準備大賞受賞について

事務局	(資料 18 について説明)
会長	これは報告とする。

3 次回開催予定

会長	次回の開催については決まっていないため、決定した後に委員へ周知する。 以上で、閉会とする。
----	--

以上